

錠煥」氏に対して叱責しておられる事実を「隠蔽」しており、まるで眞のお母様を叱責しているみ言であるかのように読ませようとしているのです。このように、『統一教会の分裂』が引用した二〇〇五年二月二十五日のみ言は、「韓鶴子の不従順」を裏づけるものではありません。

(九) 天の秩序について（二〇〇五年三月一日）

『統一教会の分裂』は248、249ページで、眞のお父様が「韓鶴子の不従順」に対し苦慮しておられるみ言であるとして、二〇〇五年三月二日のみ言を引用します。

「お母さん、しっかりと理解しなさい。神様がお母さんを中心として、先生と一つになれとは言いません。そんな道理はありません。心の位置に夫を中心として一つとなつた後、その夫と一つとなつた神様を中心として、絶対信仰・絶対愛・絶対服従しなければなりません。……お父さんよりお母さんを好きになるのは何故か。お母さんと通じれば無事だから。お父さんを騙してするから。そうしてみなさい。それは全て壊れていくのです。その子孫は、すでに決着が着くのです。お父さんの承諾を受けなければなりません」（マルスム選集489-222、223）

『統一教会の分裂』は、この内容が「創始者を不信する韓鶴子の態度」を裏づけるみ言であると述べ

ます。しかし、これも「虚偽の主張」です。『統一教会の分裂』は、引用したみ言の直前の部分を隠蔽し、意味をゆがめています。眞のお父様は、直前で次のように語っておられます。

「韓国の歴史において、息子、娘は絶対に、父の息子、娘という言葉が合うのです。最近、狂った人たちが……戸主はどうなるの？互いが戸主の看板を付けねばどうなるの？父が息子、娘を治め、妻まで治めなければならないのに、妻が思いどおりにし息子、娘が思いどおりにして主人になるならば、父は何になるのですか？神様を踏みつけて、上を、前を全て踏みつけようというのではないですか？そんな考えをしていると、それは滅びます！滅びる輩たちがそのような話をするのです。お母さん、しっかりと理解しなさい。……」（マルスム選集489-222）

『統一教会の分裂』は、み言の青色の部分を隠蔽し、茶色の部分から引用を始めています。その隠蔽した部分で、眞のお父様は「最近、狂った人たちが……戸主はどうなるの？」と語っておられます。このみ言を理解するには、二〇〇五年当時の韓国状況を知らなければなりません。

その当時、韓国の憲法裁判所が「戸主制」に対して違憲判決を下したことが韓国内で話題となり、韓国国会内でも「戸主制」の廃止が議論されていました。実際に二〇〇五年三月二日、韓国国会は「戸主制」を廃止する民法改正案を可決しています。

そのような韓国の「戸主制」廃止の動きについて、眞のお父様は「韓国の歴史において、息子、娘は

絶対に、父の息子、娘という言葉が合う」と語っておられます。さらに、お父様は「互いが戸主の看板を付ければどうなるの？……妻が思いどおりにし、息子、娘が思いどおりにして主人になるならば、父は何になるのですか？」と懸念され、「神様を踏みつけて、上を、前を全て踏みつけよう」というのではないですか？そんな考えをしていると、それは滅びます」と危惧しておられます。お父様は「滅びる輩たちがそのような話をする」ので、そのことを「お母さん、しっかりと理解しなさい」と念を押しておられます。

そして、眞のお父様は、「お母さんを中心として、先生と一つ」になることではなく、「夫と一つとなつた神様を中心として、絶対信仰・絶対愛・絶対服従」しなければならないと語られ、天の秩序を明確にしておられるのです。ところが、『統一教会の分裂』は直前の部分を意図的に削除することで、み言の意味をゆがめています。このみ言は「韓鶴子の不従順」を裏づけるものではありません。

また、『統一教会の分裂』が引用した眞のお父様のみ言には、「……」で削除した部分がありますが、これは重要な部分を隠蔽するためです。以下、「……」の部分を青い文字で引用します。

「心の位置に夫を中心として一つとなつた後、その夫と一つとなつた神様を中心として、絶対信仰・絶対愛・絶対服従しなければなりません。……だから、サタン世界の息子、娘たちがお母さんを好むのは、お父さんよりお母さんを好きになるのは何故か。お母さんと通じれば無事だから。お父さんを騙してするから。そうしてみなさい。それは全て壊れていくのです。その子孫は、すでに決着が着くのです。

お父さんの承諾を受けなければなりません」（マルスム選集489-222、223）

『統一教会の分裂』は、引用したみ言の「だから、サタン世界の息子、娘たちがお母さんを好むのは」という重要な部分を隠蔽しています。すなわち、眞のお父様は「サタン世界の息子、娘たちが……お母さんを好きになるのは何故か」と問われ、その理由について「お母さんと通じれば無事だから。お父さんを騙してするから」と語っておられるのです。ところが、『統一教会の分裂』は「創始者を不信する韓鶴子の態度」という「虚偽のストーリー」を描くために、「サタン世界の息子、娘たちが」という主語の重要な部分を削除することで、まるで「お母さん」の文言が眞のお母様のことを指して語つておられるかのように思わせて、意味をゆがめているのです。これは極めて悪意のある隠蔽行為です。

以上のように、『統一教会の分裂』は、二〇〇四年十二月四日、二〇〇五年二月二十日、同年二月二十一日、同年三月二日の四つのみ言を引用して、それらが「韓鶴子の不従順」を裏づけるみ言であると主張していますが、それらを検証すると、ことごとくみ言の前後の部分を隠蔽し、自分たちの主張に合致するよう「詐欺的」引用をしており、日本語訳では、内村鑑一氏が、話がお母様に向くよう意図的な「主語の書き加え」までしているのです。さらに、恣意的な解釈によつて、み言の意味をもゆがめています。

私たちはこのようなみ言の意図的引用と誤訳、改竄による「虚偽の解釈・主張」に惑わされてはなりません。

ません。

(+) お母様の誇り（二〇〇五年三月二十一日）

『統一教会の分裂』は249ページで、眞のお父様が「韓鶴子の不従順」に対し苦慮しているみ言であるとして、二〇〇五年三月二十一日のみ言を引用します。

「お母さんもこれからは、自分勝手にするという考え方をしてはいけません。『お父さんも私がいなければ完成できなかつた』そのような考えをしてはいけないというのです。……私も今、神様の前において『神様、私が全て絶対価値と連結させたので、私がいなければ神様は混乱しませんか。私の言うようにして下さい』と言うことはできないのです。私はできないというのです。……お母さんは、自分が六歳の時だかに道行く僧侶が現れて、娘一人いる大母様に対して『心配するな。この娘が大きくなつたら、陸海空軍を動かす世界の王と結婚する』と言つたとして、それを今まで自慢していました。お母さんはそれを信じていました。私が話すことは信じることができず」（マルスム選集491-247-258）

『統一教会の分裂』は、み言の直前の部分を隠蔽し、意味を改竄しています。眞のお父様は、直前で次のように語つておられます。

「昨夜は先生がなぜこのように咳^{せき}が出るのか？ だから、座浴をしたのです。お母様は（座浴を）しないでくださいと言いましたが。……私が運動するときは二時に起きました。運動するのに前半、後半と運動を分けて行いました。そして、お母様が休んでくださいというので休んで、お母様と一緒に目覚めてこの訓読会に参加したのです。お母さんもこれからは、自分勝手にするという考え方をしてはいけません。『お父さんも私がいなければ完成できなかつた』そのような考え方をしてはいけないというのです」（マルスム選集491-246-247、「茶色の字」は『統一教会の分裂』の引用。「青い字」は教理研究院。以下、同じ）

『統一教会の分裂』は茶色の部分だけを引用していますが、その直前の部分で、眞のお父様が「昨夜は先生がなぜこのように咳が出るのか？」と語つておられるように、お父様の体調は極めて悪い状態でした。そのため、お母様はお父様の体調が悪化しないよう「（座浴を）しないでください」と、とても心配されましたが、お父様は「咳が出る」症状を抑えようと、体調が悪いにもかかわらず「座浴をした」と語つておられます。（注、座浴とは、座った姿勢で腰の部分だけをお湯に浸かって温めること）

そして、お父様は二時に起床され、運動をしたと語つておられます。お母様はお父様のお体を心配されて、少し「休んでください」と願われ、お父様はいつたん休まましたが、その後「お母様と一緒に目覚めてこの訓読会に参加」されたのです。ところが、『統一教会の分裂』は、そのような仲睦まじい